令和４年度　学校図書館活用推進校実践報告

新潟市立坂井輪中学校　教諭　井狩　民子
司書　小杉　敦子

１．はじめに

今年度の学校図書館活用推進事業における当校の取組の基本方針は、一つ目は生徒の情報活用能力の育成を支える情報収集の拠点としての活動の充実および環境整備を行うこと。二つ目は、これまでの様々な取組の整理と意味付けを行い、活動をさらに充実・発展させること。この二つを掲げている。

以下実践内容について、図書館の三つの機能および小中連携・地域連携の五つの項目に分け、説明していく。

２．学習センターとして

（１）授業の実践

①　総合的な学習の時間（2 年）「興味のある職業について調べよう！」（７月　２h×２回）

※図書と iPad を併用して調べ学習をする生徒の様子

〈学習方法と内容〉

１０月に２日間の日程で行われる職場体験に先立ち、職業に対する知識を深めるために、各自が興味のある職業についての調べ学習を実践した。

その際に、情報収集においてどのような方法で調べれば知りたい情報が得られるかを考え、多様な方法で情報を集めることの有効性や、複数の情報源で調べることによる情報の正確性などを※事前に学習してから取り組んだ。

※資料として使用したもの…

・～学習をするとき、何を使って調べる？～　（坂井輪中学校図書館　令和４年６月作成）

・「多様な方法で情報を集めよう 」（国語２年教科書より）

※生徒が調べ学習に活用した情報収集の方法…書籍、iPad、インタビュー

〈司書との連携〉

・職業に関する書籍の事前準備　　・iPad 資料箱への資料インストール

〈生徒の様子と成果〉

iPad が導入されて以降、生徒にとっての調べ学習のツールは iPad が中心となっている。しかし今回は事前に、生徒の調べ学習に必要な書籍を冊数・内容ともに十分なものを準備した。さらに生徒にとって有用な情報や資料が書籍から得やすいことを生徒に周知したところ、書籍を積極的に利用しようとする姿が見られた。また、iPad からの情報と合わせたり、見比べたりしながらまとめる姿が多々見られた。

今回は図書館で各自が資料を探す方法ではなく、教室へ必要な資料を運んで利用する方法であったが、いずれにしても、iPad 以外の情報収集の方法を経験させ、同時にそれぞれの活用における利点や欠点を学ばせる機会の必要性を強く感じた。

② 総合的な学習の時間（1 年）「西区・坂井輪地域探究学習～地域探究新聞を作成しよう」

（6 月ガイダンス２ｈ、７月～新聞作成）

〈学習方法と内容〉

自分の暮らす地域について、それぞれが関心を持ったテーマで情報を収集、整理し、「地域探究新聞」としてまとめる。その後、学年内で発表する。

〈司書との連携〉

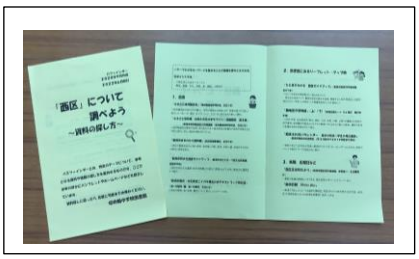
学年に向けた総合的な学習のガイダンスを前に、総合担当教諭と、図書館としてできる学習支援について話をした。まず西区の地域探究学習に活用できる資料についての情報源をまとめた「西区パスファインダー」（令和 2 年度作成版の改訂版）を作成し、ロイロノートの「図書館」の資料箱に入れ、生徒がいつでも活用できるようにした。

また西区役所に問い合わせ、西区の歴史・文化などを広く紹介した「西区ガイドマップ」を学年生徒全員分の２５０部提供していただくなど、導入時に活用しやすい地域資料の提供に努めた。

６月、1 学年全員を対象とした総合的な学習のガイダンスの時間の中で、さまざまの情報源から資料収集をする有効性や図書館にある地域資料について話をした。また電子媒体の情報と紙媒体の資料のメリット・デメリットも伝え、調べるテーマに応じて、うまく併用しながら調べ学習をすすめると、よりよい探究学習につながるということを伝えた。

並行して、図書館内に「西区地域資料コーナー」を設置し、「西区パスファインダー」とともに、過去 5 年分の西区についての新聞スクラップや、区役所だよりなどを置き、休み時間も生徒の目に留まるよう工夫した。

iPad と紙資料の活用について



西区パスファインダー

西区地域資料コーナー

〈生徒の様子と成果〉

ガイダンス後、7 月の総合の時間に、生徒は地域探究新聞のテーマ決めと情報収集を行った。学年の人数が多いため、教室での iPad による検索と並行しながら、各クラス交代で、図書館を利用した。生徒は、書籍だけではなく、西区についての新聞記事スクラップや地域の新聞販売店発行の冊子、区役所だよりなども活用しながら、テーマ決めを行っていた。

図書館での情報収集の様子

（２）環境整備

① バランスの取れた蔵書構成構築

教科に役立つ資料の充実を目指すために、現状の分類構成比率を確認し、資料が不足している分野がないか検証したうえで、図書の廃棄や新規購入を進めた。

② 図書館活用アンケートの実施

職員向けの図書館だよりに、過去数年間の図書館を活用した授業を参考資料として掲載し、今後の授業での活用アンケート、本のリクエストアンケートを行った。

③ 書架の案内表示のリニューアル

館内の分類表示を UD ゴシックフォントで新たに作成し直した。

④ 学習成果発表の場としての図書館

12 月に、1 年生が作成した「地域探究新聞」を全クラス分ファイルにしたものを館内に展示した。他学年の生徒も含め、多くの生徒が興味をもって作品を鑑賞して

いた。また、特別支援学級の生徒が、数学の授業の一環として作成したペーパークラフトと木工作品も同時に展示し、図書館が学習成果発表の場として活用された。

UD ゴシックフォントの表示

「地域探究新聞」とペーパークラフト作品の展示

⑤ 「国語教科書関連本コーナー」常設

国語の教科書関連図書を常設展示するコーナーを設置した。入口付近の棚に設けたことで生徒の目にとまり、設置して数か月経つが、手に取る生徒が多い。

⑥ 「夏休みの課題お助けコーナー」設置

「地理新聞」「都道府県ポスター」「税の標語」など、各学年の夏休みの課題に関わる本の展示コーナーを設け、放送で利用を呼びかけたところ、多くの貸出があった。

常設「国語教科書関連本コーナー」

「夏休みの課題お助けコーナー」

3．情報センターとして

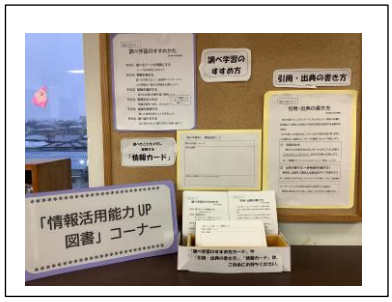
（1） １年生向け図書館オリエンテーションでのタブレットの活用

１年生向けオリエンテーションでの情報活用指導資料として、「著作権、引用、出典についての指導スライド」をロイロノートで作成した。授業時は、TV の画面で一斉指導をしたが、スライド資料はロイロノートの資料箱に保存し、生徒が個々の端末で、いつでも内容を振り返れるようにした。

また「図書館へようこそ」という利用案内のスライドも作成し、オリエンテーション欠席者もロイロノートの資料箱からアクセスできるようにした。

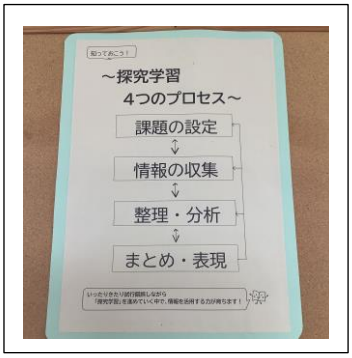
（２）　「情報活用能力 UP コーナー」設置

情報活用能力育成をねらいとし、館内に「情報活用能力 UP コーナー」を新設した。探究学習の４つのプロセスを示した表や、引用・出典の書き方などを掲示した。また、実際の調べ学習時に使用できる「情報カード」、引用・出典に書き方についてのミニカードを置き、生徒が自由に手に取れる環境をつくった。コーナー下部の棚には、今年度重点的に購入をすすめた著作権や情報モラルの関係図書を展示した。普段は奥の書架にある本がコーナー化されたことで、興味をもって手に取る姿が多く見られた。



引用・出典の書き方と情報カード

「情報活用能力 UP」コーナー



「探究学習のプロセス」掲示

（３）　地域資料コーナーの常設

毎年１年生の総合的な学習で、地域探究学習を行っているため、常設コーナーとして「西区地域資料コーナー」を設けた。区役所発行のパンフレットやガイドマップ、新聞記事のスクラップなど、地域資料の収集を今後も継続的に進め、コーナーを充実させていきたい。

４．読書センターとして

＜委員会活動の活性化＞

（１）新１年生向けの委員会の取り組み

①　「1 年生向け朝読書におすすめの本」館内展示

毎日の朝読書が始まる新１年生に向けて、図書委員２、３年生が紹介 POP を作成し、おすすめの本を展示。実際、紹介コメントを読んで本を手に取る１年生が多かった。

②　図書委員手作りの「入学おめでとうしおり」を、15 冊以上本を借りた１年生先着４０名にプレゼントした。もらったしおりを使い、朝読書をする姿が見られた。

（２）放課後ブッククラブ（読書会）開催

自分の好きな本を持ち寄り、紹介しあう読書会を実施した。コロナ禍で２年間行っていなかったが、今年度は前期・後期の読書週間にあわせ２回実施できた。生徒や司書教諭、司書が本を持ち寄り、お互いに本を薦め合い、読書の幅を広げた。

図書委員手作りの「入学おめでとうしおり」

放課後ブッククラブ（読書会）の様子

（３）年２回の読書週間行事の充実

① 前期：図書委員による坂中生におすすめの本紹介文の掲示、オリジナルしおりの作成コーナーの設置、図書館アワー特別放送、読書会の実施

② 後期：今年度着任した教職員からのおすすめの本展示、本の福袋、オリジナル読書記録ノートの作成コーナーの設置、図書館アワー特別放送、読書会の実施

図書委員おすすめの本紹介文掲示

教職員からおすすめの本

本の福袋を手に取る様子

５．小中連携

（１）以前から継続している連携の取り組み

① 小学校６年生の１年間で、２００冊以上本を借りた人に、中学校入学後１年間使える「プラス２冊貸出パスポート」のプレゼント（平成 26 年度より継続）

② 中学校区４校の共有ドライブを活用し、各校の年間図書館活用実績記録を共有

（２） 新規の小中連携の取り組み

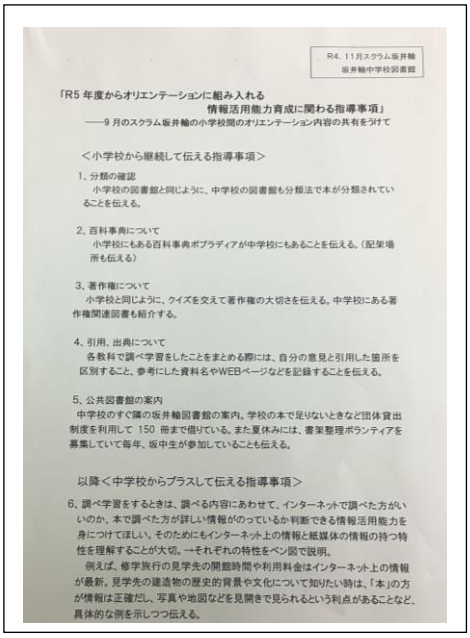
① オリエンテーションでの「情報活用に関する指導内容」の共有を行い、来年度４校

共通して行う情報活用に関わる指導項目を決定した。

【①分類について　②百科事典について　③著作権について　④引用・出典について　⑤地域の公共図書館の案内】

さらに中学校では、小学校との５つの共通指導項目に加え、「紙資料と電子資料の各メディアの持つ特性」、「調べる対象に応じてメディアを選択する必要性」を指導項目として加えた、中学 1 年生向けの新たなオリエンテーションの指導案を作成した。

② 各校の読書週間に合わせて、本の紹介文を回覧掲示した。中学校からは、「小学校の時に読んだ思い出の本」というテーマで生徒に紹介文を書いてもらった。



R4. 11月スクラム坂井輪
坂井輪中学校図書館

「R5 年度からオリエンテーションに組み入れる
情報活用能力育成に関わる指導事項」
――9 月のスクラム坂井輪の小学校間のオリエンテーション内容の共有をうけて

＜小学校から継続して伝える指導事項＞

1、分類の確認
小学校の図書館と同じように、中学校の図書館も分類法で本が分類されていることを伝える。

2、百科事典について
小学校にもある百科事典ポプラディアが中学校にもあることを伝える。（配架場所も伝える）

3、著作権について
小学校と同じように、クイズを交えて著作権の大切さを伝える。中学校にある著作権関連図書も紹介する。

4、引用、出典について
各教科で調べ学習をしたことをまとめる際には、自分の意見と引用した箇所を区別すること、参考にした資料名やWEBページなどを記録することを伝える。

5、公共図書館の案内
中学校のすぐ隣の坂井輪図書館の案内。学校の本で足りないときなど団体貸出制度を利用して 150 冊まで借りている。また夏休みには、書架整理ボランティアを募集していて毎年、坂中生が参加していることも伝える。

以降＜中学校からプラスして伝える指導事項＞

6、調べ学習をするときは、調べる内容にあわせて、インターネットで調べた方がいいのか、本で調べた方が詳しい情報がのっているか判断できる情報活用能力を身につけてほしい。そのためにもインターネット上の情報と紙媒体の情報の持つ特性を理解することが大切。→それぞれの特性をベン図で説明。
例えば、修学旅行の見学先の開館時間や利用料金はインターネット上の情報が最新。見学先の建造物の歴史的背景や文化について知りたい時は、「本」の方が情報は正確だし、写真や地図などを見開きで見られるという利点があることなど、具体的な例を示しつつ伝える。

中１向けオリエンテーション指導事項

小中連携「本の紹介ポスター回覧掲示」

６．地域との連携

（１）夏休み中の「坂井輪図書館での書架整理ボランティア」への参加

コロナ前は毎年生徒が参加していた夏休み中の「坂井輪図書館での書架整理ボランティア」を３年ぶりに開催していただいた。生徒に募集の案内をしたところ、４名の申し込みがあり、参加者からは「普段は行ったことのない書架の整理をして、読んでみたい本が見つかった」という感想や、「思ったより大変だったけれど、こんなふうに整理されているからいつも使いやすいんだと感じた」という声が聞かれました。学校図書館だけでなく、公共図書館も積極的に利用する生徒を育てるためにも、今後も積極的に参加を呼びかけたい。

（２） 地域ボランティアによる語りの会の実施

コロナ禍で休止していた「地域ボランティアによる語りの会」を後期読書週間に合わせ、3 年ぶりに校内で実施した。生徒にとっては耳から物語の世界を楽しむことができるよい機会となった。今後も継続して行っていきたい。

公共図書館での書架整理ボランティア参加の様子

校内での「語りの会」

7．成果と課題

（1）成果

・生徒が図書館の情報を各自の端末から利用できるよう、ロイロノートの資料箱に学校図書館のフォルダを作成することで、生徒に各種情報を適宜提供することができた。

・教諭と司書が連携し、目的に応じた資料媒体の選択や活用のしかたなどについて、指導支援を適切に行えた。

・小中連携の意識が高まり、学校間、司書間の交流の機会を持つことができた。その結果具体的に共有・連携するべき事項や内容が明確となり、実践に繋がった。

・コロナ禍で休止していた各種活動を再開し、読書活動の充実や地域と生徒の関わりの継続が図れた。

（2）課題

・生徒端末と図書館との結びつきを充実させ、情報発信や情報提供をよりわかりやすく行える環境を作っていくこと。

・情報リテラシーの定着を図るとともに、生徒が様々な形態の情報や資料を適切に利用できる態度を養っていくための支援・指導を行うこと。